

YOZAN

バリューチェーンで広がる WiMAX独自のサービス



執行役員 COO
中村 勉氏

千載一遇のチャンス 新しい通信の時代を、自らの手で切り拓きたい者にとって、今はまたとない好機である。なぜなら次世代無線ブロードバンド通信方式「WiMAX (IEEE 802.16)」の登場により、通信業界は地殻変動を起こそうとしているからだ。いち早くこの大きな波に乗ったYOZAN(鷹山)に戦略を聞いた。

1台のアンテナで最大約50kmのエリアをカバーできる「WiMAX」。この無線ブロードバンド通信方式の秘めるポテンシャルが明らかになっていくなか、日増しにYOZANへの注目が高まっている。

YOZANは今年2月、日本の通信事業者としては初めて、WiMAXによる音声・データの定額通信サービスへの参入を表明した。東京23区内で今年12月からサービスを開始する。

「こんなチャンスは一生に一度あるかないか」。そう語る中村勉執行役員COOはWiMAXのポテンシャルに賭け、今年2月からYOZANに参画した一人だ。ビジネスホニメーカー、岩崎通信機出身の中村は、30年以上に渡り通信業界に携わってきた大ベテラン。技術者としてキャリアをスタートさせた中村はその後、マレーシア工場の立ち上げや子会社の建て直しなどを成功させる。そのマネジメント手腕を請われ、YOZANから誘いがかった。

「圧倒的な低コストで無線ブロードバンド通信が実現できるWiMAXのポテンシャルは恐ろしいほど。技術的にも、すでに海外で実証済みだ。とんでもないチャンスに恵まれたと思っている」と意気込む。

次代をともに切り拓く

中村の役割は、全社的なプロジェクトのコントロール。「まずはWiMAXプロジェクトを計画通りに立ち上げること。そして、現在の主力事業であるPHSからWiMAXへの移行をスムーズに進めることが私の役目だ」と話す。

YOZANはWiMAXプロジェクトを3

ステップで考えている。最初のステップは5.725GHz帯を使った6月の実証実験。ここで得た知見をもとに、基地局の効率的な配置を行っていく。また、自治体や企業と協同で実施するアプリケーションの実証も第1ステップでの山場だ。先日パワードコムへの参加が発表されたが、「他にも10程度の自治体や企業が加わる予定だ」という。

YOZANが志向するのはバリューチェーン型のビジネスモデルである。老人介護や救急医療、企業向け内線通話など、さまざまなアイデアを持ったパートナーと協力してWiMAX事業を進めていく。

第2ステップは、FWA(固定無線通信)方式での12月のサービスイン。無線ブロードバンド用途に割り当てられる見通しとなった4.95GHz帯で参入する予定だ。目標は2006年3月末までに12万5000ユーザーを獲得すること。中村は「12万5000が損益分岐点だからだ。サービス開始後、3カ月で黒字化させるつもりだ」と話す。

第3ステップは移動体通信の実現だ。モビリティを備えたIEEE802.16eは、約2年後に商用化される見込みである。

次世代通信サービスの実現に向け、ひた走るYOZAN。今、ともに新しい時代を切り拓けるエンジニアやサービス企画者を募集している。

採用に関するお問い合わせ

株式会社YOZAN

<http://www.yozan.co.jp/recruit>

採用情報の詳細については上記URLをご覧ください

tel : 03-4386-4536